

名和内科・巣南リハビリセンター 広報誌「清」

# SAYA

2024 JANUARY Vol.11



清流ぶらすは、  
いつも笑顔であふれています！



地域交流施設 清流ぶらす 利用者の皆さん

岐阜清流病院 広報誌「清」

# SAYA

2024 JANUARY Vol.11



\*緩和ケア病棟デイルームにて撮影

謹賀  
新年

岐阜清流病院 理事長 名和隆英・副理事長 越路正敏

# 地域医療の未来

## 社会医療法人の認定と 清光会 50周年を迎えるにあたり

清光会は令和5年11月社会医療法人の認定を受けました。認定を受けようと考えた理由・動機を教えてください。

**名和理事長**・岐阜清流病院は開設から5年にわたり救急医療に力を入れてきました。また令和4年4月には岐阜県から「へき地医療拠点病院」の指定を受け、根尾診療所等への医療を開始するなどこの地域の医療を支えてきました。これらの活動に加えてさらに公的な役割を担うために、社会医療法人の認定を得たいと考えたことが申請に踏み切った理由になります。

**越路副理事長**・そしてこの度、「へき地医療」の実績が評価され、社会医療法人の認定を得られました。ですが話を聞いた当初、正直に言えば私には少し不安もありました。社会医療法人として求められるへき地医療や救急医療といった役割を果たすために、少ない人員をどのように回していくのかといった課題があったからです。

公共性の高い救急医療は当院がずっと力を入れてきたことで、地域医療を支える多くの医療施設の方々への支援はこれからも継続し、拡充すべき部分です。

その中でも特に重要だと考えるのは医療人を育てる、人材育成です。この岐阜清流病院で学んでずっと働いてくれるのは嬉しいことですが、それだけでなく、ここを飛び出して他の病院で力をふるう、将来の地域医療を支えていける人材を育てることも社会医療法人の一つの役割だと認識しています。

こうしたことは今まででもずっと続けてきたことですが、社会医療法人となった今、より一層尽力していく必要があると考えています。

**越路副理事長**・理事長が今言われたのは正に社会医療法人の公益性についてですね。そこに加えて、私たちが今まで力を入れてきたリハビリや緩和ケアといった既存の医療サービスもさらに

**名和理事長**・それについては私も同じように不安がありました。しかし、清光会の基本理念は、地域の皆さんの笑顔ある暮らしを支えることです。待っているだけの医療ではなく、困っている人がいればそこへ駆けつけていくことを信条とします。ですので、そうした思いと、それを叶えるための社会医療法人認定の必要性を、越路先生をはじめとする全ての職員の間で共有することで課題を解決していったと考えています。

これまでも、私たちは問題には一丸となって立ち向かってきました。その中でたくさんの方々に喜んでいただいで、岐阜清流病院の

ブラッシュアップした形で提供していきたいですね。

**50周年を迎えることへの意気込みや決意表明を聞かせてください。**

**名和理事長**・清光会が発足して50年というの私のこれまでの人生より長いものです。岐阜清流病院を開設してからは5年ですが、その間にも多くの方々に支えられてきました。地域の方、近隣のクリニック、そして、この岐阜清流病院の医師、スタッフ、社会医療法人に認定していただくにあたっては役所の方にも支えていただきました。この50周年だけでなく多くの人に支えられてきたのかと改めて考え

存在価値を地域で高められることが、私たち全員の喜びやモチベーションにつながっています。

ここまでやってこられたのは、皆さんの協力あってこそだと私は思います。

**越路副理事長**・その上で私は、協力という意味ではまとも役となる名和理事長の存在こそ清光会に欠かせないと考えています。我々職員は目の前の患者さんと向き合っている、それらの総和が病院の形になっているという認識になりがちです。その中であって理事長は地域医療のために社会医療法人の認定へと踏み切ら

させられます。

**越路副理事長**・奥南の名和内科から始まった清光会が今では岐阜西部、西濃地域まで医療の及ぶ範囲を広げている状況は確かに50年の月日を感じさせますね。清光会という名前もそもそも、理事長のお父様、先代理事長がつけられたとか。**名和理事長**・そのとおりです。清光会という名前は私の父が、自分の生まれ育ったお寺の名前から取りました。私は今では、清光会と名乗った時から地域の皆さんの暮らしを支えていくという公的な役割を果たすことを宿命づけられていたと

れたように、より大きな視座で私たちを導いていただきたいと思っています。

**今後岐阜清流病院をどのように変えていきたいか教えてください。**

**名和理事長**・私自身は社会医療法人になったことで、これまでと比べ何が劇的に変わることはないと思っています。越路先生はどのようにお考えですか？

**越路副理事長**・私もそのように考えています。ただ、

思っています。これから何年経っていくかはわかりませんが、今後も皆様からの期待に精いっぱい応えていきたいと考えています。**越路副理事長**・先代から受け継いだ遺産はさらに高めていかなければなりませんね。それと同時に、新しいものにチャレンジしていくことも同様に大切だと私は思います。副理事長として言えば、私は理事長の補佐ということになるので、名和理事長の目指す目標に万が一問題があるようならば一言申し上げて再考していた

だけのような立場でありたいと思っています。職員の私たちがこういうところを目指していくんだという思いを共有できれば、それが患者さんに還元されて、さらに患者さんからの感謝が職員のモチベーションにつながっていくような、より良い医療の形を目指したいと考えています。



インタビューの様子は動画でもご覧いただけます

社会医療法人 清光会

理事長

名和隆英

社会医療法人 清光会

副理事長

越路正敏

# TEAM SEIKOUKAI

清光会グループで活躍中のスタッフを紹介します!

NEW

2023年9月入職

リハビリテーション科部長

このみやはるお  
**二宮晴夫**



超高齢化社会の進展とともに増大する社会保障費の削減のために、病院機能の改革に取り組むと厚生労働省は声高に宣言しています。

彼らは地域医療構想を唱え、病院機能の役割分担や将来的な病床数の削減などあらゆる方策を考え医療予算は削減していきますが、その中で落ちこぼれていく社会的弱者の救済にまでは踏み込めていないのが現実です。

われわれ医療者の立場から考えると、急性期病棟の担当医は日々押し寄せる患者さんを受け入れるために努力をされていますが、その患者がどういった日々を送っており、どういった環境で生活していたために、疾病や外傷に至ったかまでを考える余裕がなかなかありません。

忙しい外来診療や救急診療のために、いわゆる、樹を見て森を見ずというジレンマに陥らざるを得ない状況があると考えられます。

我々回復期のリハビリテーション担当者は、看護師やメディカルスタッフとの協同体制を築き、患者さんの過去の仕事や生活習慣となりを尊重し、できる限りその人の希望に添うことができることを目標に仕事を進めていきたいと考えております。

NEW

2023年10月入職

麻酔科部長

やまだゆうこ  
**山田裕子**



2003年に旭川医科大学を卒業し、大垣市民病院、岐阜大学病院で経験を積みました。専門は手術のための麻酔と全身管理です。麻酔により患者さんを手術による痛みやストレスから守ります。

安全な手術、麻酔を行うことはもちろんですが、術後の苦痛を軽減することも重要です。痛みとストレスは、術後の回復に大きな影響を与えるといわれます。近年、医療技術の進歩により、麻酔科領域でも様々な鎮痛方法が導入されています。麻酔科専門医・指導医として個々の患者さんに適した安全で最適な麻酔法を検討して、皆さんが笑顔で退院できるように丁寧な診療を心がけてまいります。

手術は私たち医療従事者にとっては日常の仕事ですが、患者さんにとっては不安と大きなストレスを伴う数少ない経験であるといえます。病院スタッフと共に患者さんに寄り添った医療を実践し、地域の皆さんが安心して手術を受けられるよう全力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いたします。



●**巣南リハビリセンターに入職したきっかけは?**

2023年9月1日より入職しました管理栄養士の武藤真依子です。

もともと管理栄養士の資格は所有していましたが、前職は資格を活かせないお総菜販売の仕事をしていました。将来的にケアマネジャーの受験を考えていることもあり、介護の勉強をしながら資格を活かせる仕事に就けたらいいなと考えていました。そのような中で巣南リハビリセンターとのご縁をいただいて入職を決意しました。

●**施設での仕事内容**

普段は事務所で電話対応などを行いながら、入居者さんの栄養状態や食形態に合わせて定期的にモニタリングを行い、在宅復帰に向けて栄養面からサポートを行っています。給食業者さんが作成した献立のチェックを行い、メニュー・食材の提案や栄養の偏りがないかなど確認を行っています。食事の際は介助が必要な方のサポートを行いながら、入所・通所の皆さんの食事の様子を見て回ります。嗜好調査や他職種の方と嚥下状態などを確認し、必要に応じて食形態の見直しを行います。ご本人の要

望や看護・介護職員からの意見などを参考にして、安全で満足のいく食事に近づけられるように厨房と連携を図ります。また、依頼があれば栄養指導も行います。

●**やりがいを感じる瞬間は?**

利用者の皆さんから「美味しかったよ!」と声を掛けていただいたり、食事を全量お召し上がりになった際はとても嬉しく感じます。また、皆さんにとって食事は一番の楽しみでもあるし、面会に来られたご家族の方々の会話を聞くこととご飯の話がよく出てきます。低栄養改善など業務的なことだけでなく、食事の時間を楽しみに感じただけのような心掛けをしなければと考えさせられます。

●**今後の目標**

食事の様子を確認する際、利用者の皆さんとコミュニケーションをとることが楽しいです。今後は先輩職員のように食事介助をより安全かつスムーズに行えるようになりたいです。また、今は入職して1ヶ月程で覚えることや日々の業務をこなすことで精一杯ですが、施設の管理栄養士として多くのことを学びながら一人前になれるように日々努力していきます。



2023年11月

## みずほ♡おれんぢぷろじえくと2023 巣南リハビリセンター

2023年11月5日(日)「みずほ♡おれんぢぷろじえくと2023」が、みずほふれあいフェスタと同時開催されました。当日は天候にも恵まれ、会場となったサンコーパレットパークに多くの方々がお集まりになりました。巣南リハビリセンター職員も実行委員やボランティアスタッフとして参加しました。

### ♡「みずほ♡おれんぢぷろじえくと」とは…

「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」をスローガンに、認知症の人もそうでない人も皆さんとともに思いをつなぐまちづくりのイベントです。瑞穂市地域包括支援センターが中心となり、毎年みずほふれあいフェスタの日程に合わせてイベントを企画・運営しています。「認知症だから何も出来ない」ではなく「認知症でも出来ること」に意識を向けて、瑞穂市の皆さんが認知症に対して前向きな理解を得られるよう取り組んでいます。



### ♡実行委員からのメッセージ

みずほ♡おれんぢぷろじえくと2023公式スローガン

「つなごう優しい気持ち! つくろう安心のまち♪」

加齢に伴い認知症という病気になる確率は高まります。それは決して他人ごとではなく、誰にでも起こり得ることです。認知症になるともちろん色々大変な面はありますが、周りの環境やサポートの仕方によって生き活きと暮らすことも可能です。すべての人にとって優しく暮らしやすいまち「瑞穂市」を目指して今後も活動していきます。



### ♡イベントの様子

イベント当日はオレンジ色のオリジナルTシャツを着たランナーが瑞穂市内をジョギング・ウォーキングをしながらおれんぢぷろじえくとの宣伝・告知をし、思いをつないで回りました。また会場に設置されたブースでは認知症に関するクイズ・説明会を行い、認知症とはどのような病気なのか少しでも理解していただけるよう取り組みました。お子さんから高齢者の方まで幅広い年齢層に参加していただきました。イベントの最後には環境に配慮した風船を参加者みんなで空に放つ「バルーンリリース」が行われ、イベントカラーのオレンジ・ホワイトの風船がきれいに空に浮かびました。

名和内科 岐阜県瑞穂市重里2005 TEL:058-328-3311  
 巣南リハビリセンター 岐阜県瑞穂市重里1996 TEL:058-328-3387  
 グランフォート清流 岐阜県瑞穂市本田908-1 TEL:058-329-5001  
 清流ぷらす 岐阜県瑞穂市別府1227-1 TEL:058-216-6360

2023年8月

## 第1回岐阜清流病院をよくするアイデアコンテスト開催!

「患者さん・地域の皆さんから愛される病院」「職員自身が愛せる病院」を目指すために必要なことは何か?全職員を対象にアイデアコンテストを開催。多岐にわたる全171件の応募から1位~3位までを選出し、受賞者に表彰状と金一封を贈りました。

### 【受賞アイデア】

- ①外来受付導線の変更 ②勤務時間の調整
- ③近隣開業医との交流会

岐阜清流病院はすべての人を笑顔にできるよう邁進してまいります。コンテストは続く!



2023年9月

## ロボット支援手術のラーニングセンターとして始動

9/11、当院でCertification Trainingが行われました。手術支援ロボット「ROSA」を導入した病院の医師に対して、講義や手術手技の指導を行うのもで、熟知している松本病院長が指導者としてトレーニングを行いました。



2023年9月

## 特定技能外国人スタッフ活躍中!

9/11、インドネシアから特定技能外国人3名が看護補助者として勤務を開始しました。

看護補助者の慢性的な不足を補い、今後持続可能なサービスをお届けするために導入を決定しました。彼女たちは厚労省が定める日本語能力試験や特定技能介護試験の基準をクリアした即戦力となり得る人材で、岐阜清流病院に新たな風をもたらしてくれています。今後も共に患者サービスの向上に努めてまいります。



2023年11月

## 当院整形外科のロボット支援手術がテレビ放送されました

11/26、岐阜放送にて「医療の現場最前線～ロボット支援手術で変形性膝関節症に挑む～」が放映されました。当院整形外科が導入しているロボット支援手術を紹介した番組。低侵襲で正確性が高く、早期回復が期待できます。



医療ドキュメンタリー地上波特別番組  
 ■番組名■ 医療の現場最前線  
 ～ロボット支援手術で変形性膝関節症に挑む～  
 ■放送局■ 岐阜放送「まふチャッ」

番組は当院ホームページでご覧いただけます。

